

新たな学びの創造 「探究ナビ」

大阪府教育センター附属高等学校校長
坂井 啓祐

■ 附属高校設立の理念

本校は、平成23年に全国初の教育センターと一体となった高等学校として誕生した。大阪の教育を先導するナビゲーションスクールとしてのミッションがある。

本校のキーワードに、校章にもデザインされている「学びのクローバー」がある。このクローバーには四つ葉で構成され、一つ一つの葉に「発見」「探究」「感動」「自信」の言葉が配置されている。これは、本校での様々な教育活動で獲得してほしい学びを表している。



自らの目標に向かってチャレンジを続ける中で自己の可能性を発見し、学んだ知識・技能を最大限に活用する探究的な学習活動を行う。そして、自立への歩みを進めながら、仲間と共に全力で取り組み、やり遂げたという感動を分かち合い、たくましく生きる自信を獲得する。そして、獲得した自信を胸に新たな目標に向かって進んでいくという、無限に続くスパイラルから無限の可能性を切り開き、夢と志の実現へと続いていくという、本校の理念を表している。

■ 探究ナビのめざすもの

この理念に基づいて立ち上げた教科が探究科である。これまでの生徒の学びが、常に答えを教えられてきたことに加えて、授業でも多様な考えを問われることも少なかった。そのため、多くの生徒がすぐに答えを求めてくる状況があった。しかし、社会に出ると正解などなかなか見つからない。それどころか、何が課題であるか分からないことも少なくない。そのような事柄に多くの人が納得できる「答え」を出すにはどうすればよいのかを学ぶのが探究科の探究ナビである。

もともと「正解」といえるものがよく分からないのであるから、多くの人たちが納得できる意見をまとめていくしかない。そのために、まず自分で考えて自らの意見を持ち寄ってみんなで話し合いを行う。もちろん、この話し合いでは単なる思い付きや誰かに聞いた話を持ち寄っても意味がない。自らの意見を「根拠」を示して話さなければならない。

また、自分と正反対の意見に対しても議論を深めるために、相手の「根拠」に誤りはないのか、自分の「根拠」としていることと何が違うのかを考え、そして、自分の意見に取り入れるべき部分はないのか、ということを考えながら話し合いを行い、多くの人が認める「納得解」を見つけていくのが探究ナビである。各学年必修履修科目として2単位で実施している。

■ 探究ナビの取り組み

探究ナビについて、学年ごとのテーマと身につけさせたい力と特徴的な取り組みを紹介しておく。

1年次「人とつながる」

各教科で身につけた知識・技能を活用し、人の話を「聴く」力、課題を「見つけ」「調べ」「まとめ」「伝える」力を育成する。また、チームで協力・共同して課題に取り組む力の育成である。

1年次の最も特徴的な取り組みは、劇団の協力を得ながら、一年の総まとめとして行ってい

る演劇的手法を用いたプレゼンテーションである。それまでも「伝える」力の育成のためにプレゼンテーションの機会が多く準備されている。しかし、ここでは身体を使って表現するという手法を用いている。ランダムに集められた10人程度の生徒が一つのチームとして、伝えたいことをどう表現すればよいのかをみんなで考えて劇を作り上げていく。小道具等は使えないので、それぞれ創意工夫が必要である。そのために、意見を出し合い、より良いものを作り上げようと話し合いが続けられる。全員が演者として登場するため、誰がどんな役をするのかも話し合いの中で決まっていく。もちろん演劇のうまさを競うのではなく、みんなで協力して劇を作り上げていくことがねらいである。生徒には一番印象に残る取り組みで、2年次以降に行われる発表の機会に演劇的手法を用いる生徒もいる。

2年次「社会とつながる」

1年次で身につけた人間関係形成力をさらに発展させ、社会形成能力、自己理解力を充実させる。日常生活の中で、自然・社会的課題を「感じ・気付き」「関わり」、課題を探究し、解決のための行動や、調査の方法などを「計画」し、その結果を「多面的・多角的に考え」分析、「協働」し発表する力の育成である。

2年次では、学んだことが自らの生活とつながるような取り組みを取り入れている。普段生活している地域の福祉、防災、歴史や文化について知る機会を設けている。あるいは、修学旅行での自由行動の内容をコンペティション形式で決める取り組みを行うこともある。

3年次「未来を拓く」

1・2年次で身につけた力をもとに、自己実現の手段と方法を考える。与えられたテーマについてグループ研究し、近未来も視野に入れた研究を行い、将来に役立つ研究につなげていく。

最近では、近未来の社会を想定した取り組みを進めている。特に、近年人工知能の発展が凄ま

じく、そんなに遠くない将来、人工知能が人間の能力を超えることも予想される。そんな時代に必要とされる新しい仕事やサービスについて考えさせている。

■ 探究ナビの今後

探究ナビは、社会で求められる「主体性」や「コミュニケーション力」の育成をねらいとして立ち上げた教科である。探究ナビの学びによって、入学試験に合格するための学力がすぐに身につくというわけではないが、その学びによって学習意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成につながり、結果として大学入試にも対応できると考えている。高大接続改革の議論が探究ナビの取り組みを後押ししてくれるものと思っている。

もともと探究ナビは、既存の教科で身につけた知識・技能を活用する教科として位置付けていた。さらに、学びを進めていく過程で、生徒自身が知識・技能の不十分さに気づき、それが既存の教科の学びにつながってほしいと思っている。次期学習指導要領の改訂では、カリキュラムマネジメントがキーワードの一つになっている。現在、探究ナビを柱としたカリキュラムの配置ができないかと考えている。そのために、各教科での指導内容の取りまとめを始めたところである。

最後に、探究ナビの授業を終えた生徒の感想を紹介する。

○自分から行動するタイプだが、探究ナビを通じて新しいリーダーシップの取り方を学んだ。自分だけが行動するのではなく、みんなでやる。そのためには、相手の意見を尊重するのが大切だし、自分の意見を伝えやすくするのも大切である。リーダーシップをうまくとれるように成長したと感じた。

○自分の思っていることを積極的に伝えることで、周りで言いにくそうにしている人も言いやすくなり、グループとしての成長を感じた。また、話し合ったりする楽しさやいい案につながった時のうれしさも感じられた。